



下松市スポーツ推進計画

平成31年3月 改定版

生涯スポーツ活動による心豊かな生活の実現をめざして

下松市スポーツ推進計画 改定版
平成31年3月

発行: 下松市

編集: 下松市教育委員会生涯学習振興課

〒744-8585 山口県下松市大手町3-3-3

TEL 0833-45-1820 FAX 0833-45-1865

はじめに

スポーツは、心身の健全な発達、健康や体力の保持増進など、人生を健やかに過ごすための身体活動であるとともに、私たちに夢や感動を与え、また、人々の交流を促進し、地域のにぎわいを生み出すなど、多様な効果が期待されるものであります。

本市では、平成26年3月に下松市スポーツ推進計画を策定し、心豊かな生活の実現に向け、生涯にわたってスポーツに親しんでいただけるよう、「する」スポーツの推進、「観る」スポーツの推進、「支える」スポーツの推進を基本方針に、スポーツイベントの開催やスポーツ指導者の資質向上、スポーツ組織の育成支援などさまざまな施策に取り組んでおり、下松市民憲章に掲げる「スポーツに親しみ 健やかなまちをつくる」を推進してまいりました。



この間、国では、平成27年10月にスポーツ庁が発足し、平成29年3月に「第2期スポーツ基本計画」が策定されました。また、山口県では、平成28年4月に観光スポーツ文化部が創設され、平成30年11月に「山口県スポーツ推進計画（改定版）」が策定されました。それぞれの計画で、スポーツ参画人口の拡大やスポーツによる地域の活性化などの方向性が示されています。

来年は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されますが、本市では、平成30年12月にベトナムを相手国として「東京2020オリンピック」に係る「ホストタウン」の登録を受け、「わがまちスポーツ」と位置付けているバドミントンのオリンピックキャンプ地誘致等により、スポーツによる地域の活性化をこれまで以上に推進してまいりたいと考えております。本大会では、感動の名場面が多くの人々の心に残ることを期待しております。

こうした中、本市では、5年後に向けて、本計画の見直しを行い、後期計画と位置付ける改定版を策定しました。本改定版は、社会情勢や市民ニーズをとらえ、「する」「観る」「支える」の様々な立場で、市民の皆様がスポーツに参画できる環境整備を進めていく指針とするものであります。スポーツの価値を一層高めるため、これからも、計画の諸施策を積極的に推進してまいりますので、市民の皆様のご協力をお願い申し上げます。

終わりに、本計画の見直しにあたりまして、市民ワークショップにご協力いただきました皆様をはじめ、貴重なご意見やご提言をいただきました下松市スポーツ推進計画策定検討委員会委員の皆様、関係機関、関係団体の皆様に心から感謝申し上げます。

平成31年3月

下松市長 國井益雄

目 次

第1章	下松市スポーツ推進計画の基本的考え方	1
1	計画改定の趣旨	1
2	計画の位置づけ	2
3	計画の期間	2
第2章	下松市スポーツ推進計画の体系	3
1	基本理念	3
2	基本方針	3
3	現状把握	3
4	新たな目標設定	3
5	計画の推進体系	4
第3章	下松市スポーツの現状	5
1	市民ワークショップのまとめ	5
2	下松市のスポーツ組織・教室などの現状	8
3	下松市の学校スポーツの現状	11
第4章	施策の方向性	15
1	ライフステージごとの施策の方向性	15
2	下松らしさを活かした施策の方向性	17
第5章	施策の展開	19
1	「する」スポーツの推進	19
2	「観る」スポーツの推進	26
3	「支える」スポーツの推進	28
第6章	計画の推進	34
1	市民・スポーツ各関係団体・行政との協働のしくみの構築	34
2	課内での進捗状況の把握	34
3	計画の達成状況の検証	34
4	市民への周知	34

資料	35
1	下松市体育施設・健康増進施設等	36
2	下松市スポーツ推進計画策定過程	37
3	下松市スポーツ推進計画策定検討委員会設置要綱	38
4	下松市スポーツ推進計画策定検討委員会委員名簿	39

第1章 下松市スポーツ推進計画の基本的考え方

1 計画改定の趣旨

スポーツは、青少年の健全な心身の育成や発達に重要であるとともに、私たちすべての市民に、明るく、生きがいのある生活をもたらし、活気のある「まちづくり」をする上で大切な要素の一つです。

スポーツ基本法[※]では、スポーツは世界共通の人類の文化であり、すべての人々が権利としてスポーツを楽しみ、又は、スポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない、とされています。

平成27年10月にスポーツ庁が発足し、平成29年3月には第2期スポーツ基本計画[※]が策定されました。～スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life～を基本方針に、計画の理念で「スポーツの価値」を具体的に示しています。

また、山口県では、平成28年4月、観光スポーツ文化部が創設され、スポーツ振興はもちろん、スポーツによる交流人口の拡大や地域活性化に向けた施策を展開しており、平成30年11月には、「山口県スポーツ推進計画」改定版が策定されました。

下松市においても、市民の健やかな心と体づくりを目的に、レクリエーションとしてのスポーツから競技スポーツまで、市民の関心やライフスタイルに合ったスポーツを充実させ、スポーツによる活気に満ちたまちづくりを推進するため、このたび「下松市スポーツ推進計画」改定版を策定しました。

【スポーツ基本法（平成23年6月制定）】

スポーツ基本法は、スポーツ振興法（昭和36年制定）を改正し、スポーツによる基本的理念を定め、国、地方公共団体の責務及びスポーツ団体の努力などを明示し、スポーツ施策に関する基本的事項を定めている。

【第2期スポーツ基本計画（平成29年3月策定）】

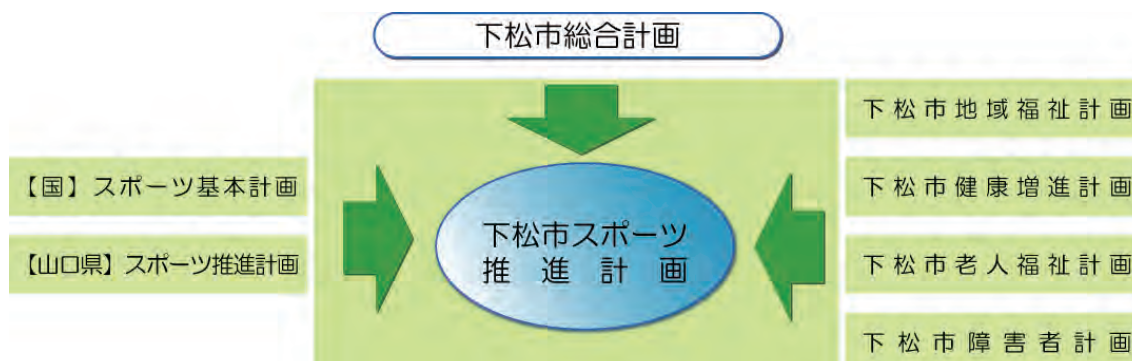
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、国民の成熟した文化としてスポーツを一層根付かせ豊かな未来を創ることが、スポーツ振興に携わる者の最大の使命である。

スポーツの「楽しさ」「喜び」こそがスポーツの価値の中核であり、全ての人々が自発的にスポーツに取り組み自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い世界を創る。

- 1 スポーツで「人生」が変わる！
- 2 スポーツで「社会」を変える！
- 3 スポーツで「世界」とつながる！
- 4 スポーツで「未来」を創る！

2 計画の位置づけ

本計画は、下松市総合計画の下位計画とし、下松市の各計画及び、国のスポーツ基本計画、山口県スポーツ推進計画と整合性を取って策定しています。



3 計画の期間

本計画は、策定から10年間程度を見通した計画期間としており、今回の見直しでは、平成31（2019）年度から平成35（2023）年度までの後期計画として位置付けます。

年度	一 計 画 期 間									
	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023
下松市スポーツ推進計画					★					
下松市スポーツ推進計画 (改定版)										

★は、中間見直しの実施時期

第2章 下松市スポーツ推進計画の体系

1 基本理念

市民が生涯にわたってスポーツに関わり、心身ともに健康な生活を送れるよう、また、スポーツを通じて、市民が地域と一体感を持って心豊かに生活できるまちづくりを目指し、次の基本理念を設定します。

「生涯スポーツ活動による心豊かな生活の実現をめざして」

2 基本方針

(1) 「する」スポーツの推進

年齢、性別、障害の有無に関わらず、スポーツができる環境づくりを行います。

(2) 「観る」スポーツの推進

スポーツを観て、感動することで、競技力の向上や地域の一体感を創ります。

(3) 「支える」スポーツの推進

スポーツ活動をみんなで支えることで、心豊かなまちづくりを行います。

3 現状把握

本計画を策定した際に目標として設定した次の5つの指標について、1・2・4は回答者の主観に、3は家庭の経済状況に左右されるものであり、追跡調査が困難と判断しました。

また、5については平成30年度末現在、登録者数は個人18名と3団体で、200件の目標値を大幅に下回っています。以上から、このたびは市民ワークショップによる現状把握の方法を取りました。市民ワークショップの結果は、5ページ以降をご覧ください。

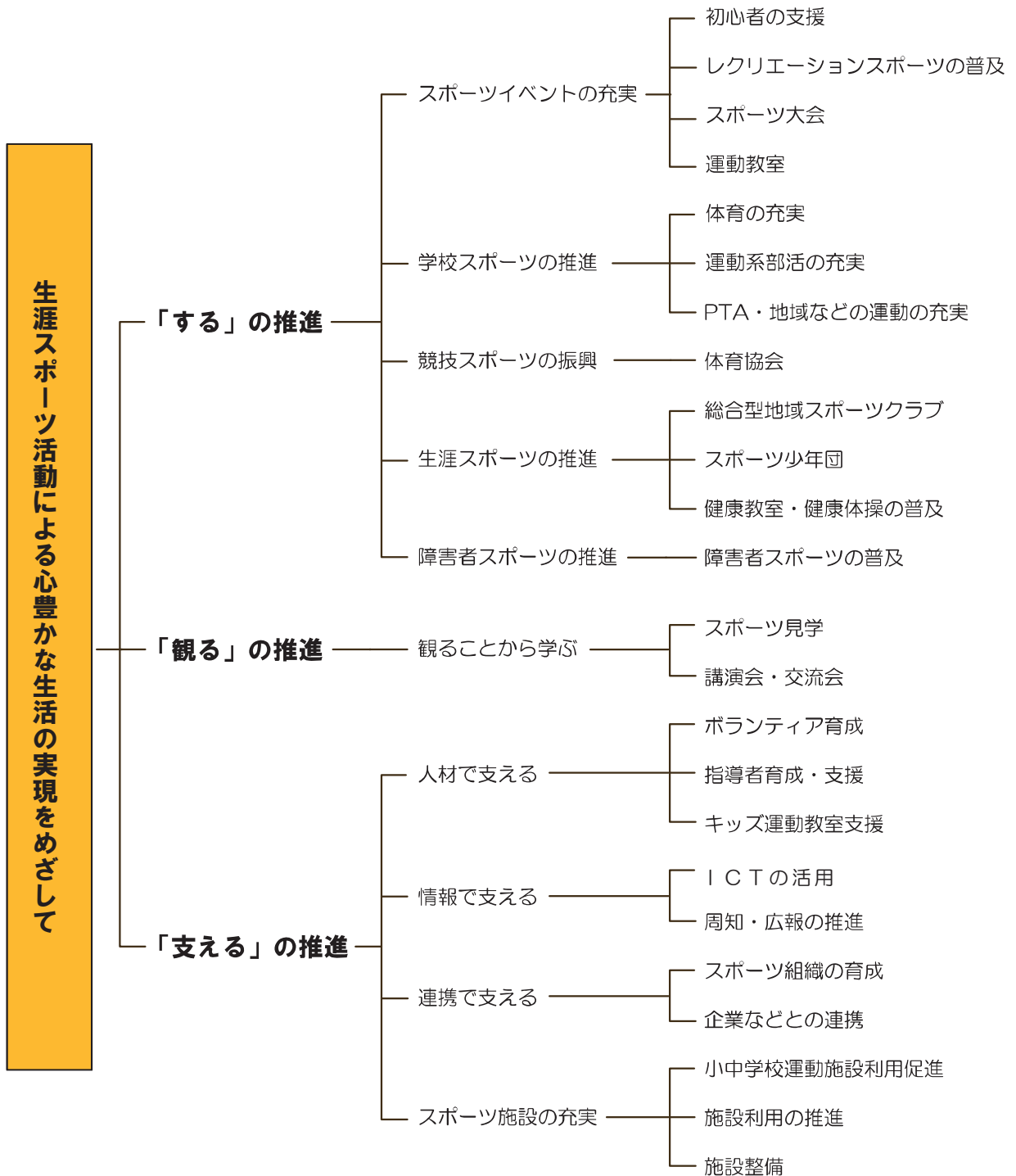
- 1 スポーツ活動を行っており満足している人の割合（市民のスポーツ実施率）
- 2 スポーツの実施を通じて、自身が健康だと認識している市民の割合
- 3 運動系の習い事をしている高校生の割合の増加
- 4 スポーツを観戦し感動する人の増加
- 5 スポーツボランティア登録制度の登録件数

4 新たな目標設定

向こう5年を見据え、計画期間終了後、さらなる10年程度を見通すため、次の新たな目標を設定します。

指標項目		平成35年度	
1	市民のスポーツ実施率（週1回以上）	65%	
2	授業以外で運動やスポーツを行う1日の平均時間	市内小学生	80分
		市内中学生	100分
3	市内体育施設で開催されたスポーツイベントの大会観戦者数	10,000人	
4	市内体育施設で開催されたスポーツイベントの運営スタッフ数	1,000人	
5	スポーツボランティア登録者の活動のべ人数	100人	

5 計画の推進体系



第3章 下松市スポーツの現状

1 市民ワークショップのまとめ

【開催日時・場所】

- ・平成31年2月3日（日）13:00～15:30
- ・ほしらんどくだまつ サルビアホール

【参加者】

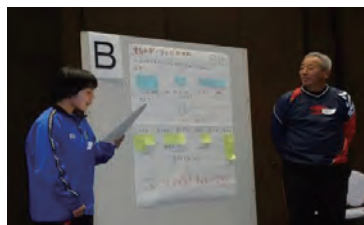
前回のワークショップ参加者を中心に、市内でスポーツ推進に関わっている団体、スポーツ推進計画の策定委員等一般市民38人、中学生6人の参加を得ました。

【実施方法】

「する」「観る」「支える」をテーマに6つのグループに分かれ、下松市においてスポーツを活性化するためにはどのようにすればよいかを、ブレインストーミング形式*で話し合いました。出された意見を各グループでまとめ、全員の前で発表を行いました。

※ブレインストーミング形式…集団でアイデアを出し合うことによって相互交錯の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法

○する（A班・B班）



○観る（C班・D班）



○支える（E班・F班）



ファシリテーターの事前説明により、グループ会議の趣旨や進行について共通認識したリーダーの進行で、各グループとも熱心な話し合いが行われ、中学生がみんなの前で発表したグループもありました。

市民ワークショップでは、さまざまな意見をいただき、前回の6つの分野に追記しております。これらを基に、事務局において政策協議を行い、計画書に反映させています。その主な意見は下記の表のとおりです。

【市民ワークショップでの主な意見】

追記…**太字**

項 目	主な意見
<p>① スポーツイベント・教室の活性化 「既存のスポーツイベントや教室の充実」 「初心者が参加しやすい工夫」 「新たな教室、手軽なスポーツの紹介など」</p> <p>★生涯スポーツ・健康スポーツへ参加できる きっかけと、しくみづくり（ポイント制等）</p> <p>★誰でも（老若男女・障がい者）参加できる イベントの開催</p> <p>★情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存の教室の教室数の増加や各地域への展開ができればよい。スポーツイベントや教室の運営の改善で活性化。 初心者を歓迎し入れることが重要ではないか。 初心者用スポーツ教室や初心者を指導できる指導者をもっと欲しい。 初心者への用具貸出しがあれば参加が増える。 親子で参加する教室は子どもがスポーツを知るよい機会となる。 <p>⇒親子対象、乳幼児が気軽に参加できるスポーツイベントの増加（乳幼児の保育等のサポートを含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子スポーツで家族間交流ができる。 ウォーキングやジョギングなど手軽ないつでもできる運動の普及をすべき。 障害者も参加できるスポーツ教室やイベント開催。 障害者や高齢者の指導ができる人の確保が必要。 <p>⇒在宅の方へのアプローチ方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校PTAなどでチームをつくり、ソフトバレー大会などを行えばよい。 <p>⇒冬のスポーツに親しめる機会</p>
<p>② スポーツの支援者の充実 「スポーツ指導者やボランティアの充実」</p> <p>★指導者の育成、団体の継続、技量の伝継</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導のための講座（技術・コーチング・ケガ防止）や指導者同士の交流会で、指導者の質の向上が必要。 指導者やボランティアの名簿づくりをして、スポーツ経験者など協力を求めるとよい。

<p>★スポーツボランティアのPR ★ボランティア制度（ポイント制等）の充実</p>	<p>⇒障がい者スポーツの指導者、ボランティアの確保 ⇒する人が多いが、運営していく人が少ない ⇒する人も支える人になれる→支える楽しさを伝える ⇒高齢者が多く若い人が少ない ⇒中学生・高校生ボランティアの増員 ⇒ボランティア育成のための勉強会、講習会の開催 ⇒他のグループとの連合、連携</p>
<p>③ 情報の提供のしかたの充実 「情報の整理整頓による一元化と積極的な情報発信」 ★SNS・メディアの活用（市広報・テレビ・HP） ★年代別に発信のしかたを考える</p>	<p>・市のスポーツイベントなどに関する一覧表があれば参加しやすい。 ・現在行われているスポーツ教室、イベントなどに関する内容をもっと広報すべき。 ・ホームページ、ブログなどICTを使った情報発信をもっとすればよい。 ・有線放送などを使ってスポーツイベントなどの紹介をすれば、周知が進む。 ⇒年代別の拡散、周知方法を工夫する ⇒BS放送などスポーツ観戦できる番組を無料に ⇒人が集まる商業施設で大きく宣伝（情報発信）</p>
<p>④ スポーツに対する意識や意欲の醸成 「観ることから学び、意欲を持つしくみ」 ★誘致の方法 ★企業（クラブチーム）の協力を得る ★活動から学び、意欲へ</p>	<p>・市のスポーツイベントへプロや一流選手を招へいし交流することでスポーツをする意欲が高まる。 ・プロや一流のアマチュアのプレーや競技を見ることが大切と思う。 ⇒全国大会などの開催が少ない ⇒親子で参加（見たり、やったり）できるスポーツが行われていない ⇒スポーツに興味がない→知らない→やったことがない→やってみる機会の確保 ⇒自らスポーツに参加し、スポーツに興味をもってもらう</p>
<p>⑤ 設備のメンテナンス・整備など 「設備のメンテナンスと施設利用ルール」 ★大規模大会に適應できる施設が少ない ★他市施設、学校施設を共用できないか ★シャトルバスの運行</p>	<p>・老朽化対策。 ・ケダ防止のための修理。 ・施設に清掃具の整備。後から使う人のためであり、しつけや感謝の心の育成にもなると思う。 ⇒スポーツセンター（体育施設だけではない）があれば変化がおきる ⇒観るための施設がない（駐車場、設備、宿泊施設等、観戦者を受け入れるだけの収容数の確保） ⇒会場へのアクセスがよくない（交通機関） ⇒利用者のていねいな使い方 ⇒定期的なメンテナンス</p>
<p>⑥ その他</p>	<p>・指導者・ボランティアなどへの安全教育などの実施。 ・企業ごとのチームを作りイベント参加を要請すれば、スポーツイベントなどが活性化すると思う。 ・朝のラジオ体操を会社ぐるみで実施するなどの要請をすれば、健康な人の多いまちづくりができると思う。 ・スポーツ推進のためにはお金もかかるが、そのための助成金の獲得や募金などの活動が必要ではないか。</p>

2 下松市のスポーツ組織・教室などの現状

① 下松市体育協会

25の登録団体があり、活動しています。

—下松市体育協会登録者数の状況—

	名 称	登録 人数		名 称	登録 人数
1	下松市水泳連盟	92	14	下松市剣道連盟	155
2	下松市陸上競技協会	75	15	下松市弓道連盟	49
3	下松市スキー連盟	5	16	下松市空手道連盟	75
4	下松市野球連盟	446	17	下松市テニス協会	200
5	下松市ソフトボール協会	176	18	合気会下松道場	41
6	下松ソフトテニス連盟	415	19	下松市中学校体育連盟	1,563
7	下松市卓球協会	330	20	高等学校体育連盟	1,422
8	下松市サッカー協会	585	21	下松市スポーツ推進委員協議会	24
9	下松市ハンドボール協会	30	22	下松市スポーツ少年団	539
10	下松市バドミントン協会	210	23	武術太極拳協会 下松	95
11	下松市バスケットボール協会	443	24	下松グラウンド・ゴルフ協会	290
12	下松市バレーボール協会	605	25	下松ゲートボール協会	47
13	下松柔道協会	70		合 計	7,982

※平成30年度

② 下松市スポーツ少年団

21の登録団体があり、主に市内の小学校4～6年生が登録し、活動しています。

—スポーツ少年団登録者数の状況—

	名 称	登録 人数		名 称	登録 人数
1	花岡ミニバス	13	12	豊井サッカー	21
2	中村ソフト	14	13	下松中央ミニバスケットボールクラブ	48
3	花岡（ソフト）	44	14	末武ミニバスケットボールクラブ	39
4	久保ソフトボール	24	15	下松柔道	40
5	下松東陽陸上	36	16	旗岡軟式野球	19
6	久保サッカー	17	17	久保ミニバスケットボール	11
7	下松中央ソフトボール	28	18	下松空手	61
6	花岡サッカー	23	19	久保軟式野球	22
9	花岡バレーボール	12	20	江の浦なぎなた	20
10	末武ソフト	22	21	末武少女バレー	13
11	中村ミニバスケットボール	12		合 計	539

※平成30年度

スポーツ少年団の加入率＝539人÷1,594人＝33.8%

※1,594人は、市内の小学校4～6年生の数

③ 総合型地域スポーツクラブ

市内には総合型地域スポーツクラブがあり、活動しています。

クラブ	実施概要
<p>くだまつ絆星スポーツクラブ</p> <p>「ちいさな子どもから高齢者まで、いつでもどこでもみんな気軽に楽しく輝ける場と、仲間づくりを提供するクラブ」</p>	<p>*入会者 321 人</p> <p>*定期的教室・サークル活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラージ硬球卓球（火） 43 回/年 ・ラージ硬球卓球（土） 33 回/年 ・パドルテニス 80 回/年 ・ジュニアハンドボール 113 回/年 ・初級バドミントン 42 回/年 ・ナイトランニング 36 回/年 ・ニュースポーツ 33 回/年 ・おさんぽりん 11 回/年 ・ノルディックウォーキング 22 回/年 ・ヨガ 11 回/年 ・K I D S ☆ J U D O 体操教室 45 回/年 ・カゴ編み 18 回/年 ・ハイキング 7 回/年

※平成 29 年度

④ スポーツ推進委員の活動

地域から選出されたスポーツ推進委員が様々な活動をしています。

主な取組	概要
教育委員会が主催するイベント支援	短期スポーツ教室、市民体育祭、市民ウォークラリー大会、下松レクフェスタなどのイベントの運営支援を行っている。
スポーツネット「きらら」発行	レクフェスタ、ウォークラリーの開催案内や大会などの結果を掲載したものを年に 3 回発行し、参加促進を図っている。
研修会への参加	周南地域スポーツ推進委員協議会総会・研修会、山口県スポーツ推進委員協議会研修会、中国地区スポーツ推進委員協議会研修会等へ参加している。研修会では、実技指導、研究などによる委員の資質向上を図り、他市の委員との情報交換を行っている。

※平成 30 年度

ースポーツ推進委員構成ー

第 30 期下松市スポーツ推進委員協議会	下松中央公民館区	4 人	笠戸公民館区	1 人
	豊井公民館区	2 人	笠戸島公民館区	1 人
	久保公民館区	3 人	深浦公民館区	1 人
	花岡公民館区	3 人	米川公民館区	1 人
	末武公民館区	3 人	市内全域	3 人
	中村公民館区	2 人	合計	24 人

※平成 30 年度

⑤ 教育委員会が主催する教室・大会

さまざまな教室・大会を継続的に開催し、実施内容や運営方法の見直しを図っています。

主な取組	概要	参加人数
短期スポーツ教室	公民館事業を通じて、気軽にできるレクリエーションスポーツの体験を中心に実施し、地域の方との交流、スポーツの楽しさを体感する場として位置付けている。	580
出前講座（スポーツ関係）	各地域の活動現場に出かけて、スポーツの普及啓発や指導をメニューとした人材派遣を実施している。	154
水泳教室	市内の小学校に通学する泳ぎを苦手とする児童を対象に、水泳のスキルアップを図っている。	110
市民ゲートボール大会	ゲートボール競技を通し、市民の親交と健康増進向上などを図ることを目的として開催している。	35
ワンバウンドふらばーるボールバレー大会	特殊なボールを使用し、誰もが気軽に楽しめるゲーム性の高いレクリエーションスポーツの大会を開催している。	91
市民体育祭	ソフトバレーボール・卓球・ソフトボール・ゲートボール・グラウンドゴルフを競技種目とし、地域スポーツの活性化、市民スポーツの発展、スポーツの日常生活化による健康づくり・体力づくりを図っている。	☆565
市民ウォークラリー大会	ウォーキングの普及とスポーツを愛する市民の親交を目的に大会を開催している。	127
ノルディックウォーキング教室	取り組みやすい運動の一つとして、初心者向けの教室を実施している。	32
下松駅伝競走大会	中学校の部、高校の部、女子の部、一般の部に部門分けし、7区間 20km 程度を競走している。	900
下松レクフェスタ	市民スポーツの振興と市民相互のふれあい、健康・体力づくりを目的に、アジャタ（競技玉入れ）・長なわとびの競技を行っている。	371

☆は平成 29 年度（平成 30 年度は、台風のため中止）

※平成 30 年度

3 下松市の学校スポーツの現状

① 学校スポーツ推進について

各学校での新体力テストを分析し、子どもの体力向上に向けた取組計画を作成しています。体育の授業改善と充実を目的として、1校1取組みの実施、家庭・地域との連携、運動系部活動やスポーツ活動割合の増加などを図っています。

② 下松市児童生徒体力・運動能力調査結果（平成30年度実施分）

平成25年度調査結果と比較し、小学校5年生の男子では、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルランで向上がみられ、女子は50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ以外の種目で向上がみられました。中学校2年生の男子では、上体起こし、反復横とびで向上がみられ、女子は握力、持久走以外の種目において向上がみられました。

—全国運動能力調査結果（平成25年度と平成30年度の比較）—

《男子》

校種・学年		小学校5年生		中学校2年生	
種目		下松市		下松市	
		平成25年度	平成30年度	平成25年度	平成30年度
握力	(kg)	15.3	15.6	28.8	27.6
上体起こし	(回)	19.5	20.1	25.1	27.3
長座体前屈	(cm)	29.6	30.6	40.2	38.6
反復横とび	(点)	40.7	41.2	50.2	53.1
20mシャトルラン	(回)	53.3	57.9	98.1	93.4
持久走（中学校のみ）	(秒)	—		442.4	393.7
50m走	(秒)	9.4	9.4	8.0	8.1
立ち幅とび	(cm)	151.7	148.9	195.1	190.6
小 ソフトボール投げ 中 ハンドボール投げ	(m)	23.6	21.9	22.2	20.9

《女子》

校種・学年		小学校5年生		中学校2年生	
種目		下松市		下松市	
		平成25年度	平成30年度	平成25年度	平成30年度
握力	(kg)	15.0	15.6	23.8	23.1
上体起こし	(回)	18.4	18.8	24.1	26.0
長座体前屈	(cm)	33.7	34.4	41.3	42.0
反復横とび	(点)	38.3	39.5	46.9	49.0
20mシャトルラン	(回)	43.8	44.5	65.3	68.7
持久走（中学校のみ）	(秒)	—		235.4	280.5
50m走	(秒)	9.6	9.6	8.8	8.7
立ち幅とび	(cm)	144.9	142.1	168.4	168.8
小 ソフトボール投げ 中 ハンドボール投げ	(m)	13.6	13.6	13.9	14.6

—全国運動能力調査結果（全国・県との比較）—

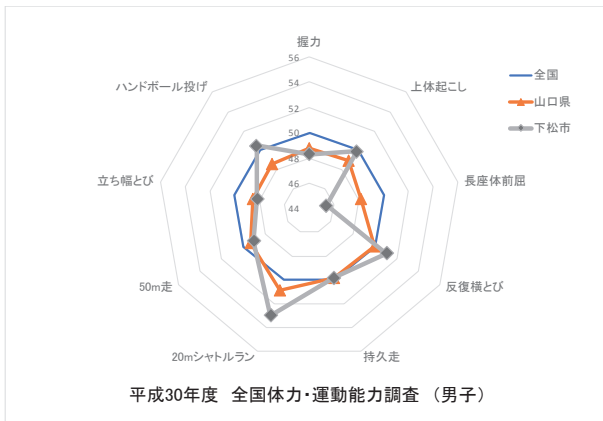
平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、各種目の全国平均値を50（青線）とした時の数値（T得点）をレーダーチャートで示したものです。

《小学校5年生》



男子においては、20m シャトルランのみ全国平均を上回る結果であり、握力、長座体前屈は全国平均を大きく下回る結果となっています。また女子においては、男子の結果と同様、20m シャトルランのみ全国平均を上回る結果であり、長座体前屈、立ち幅とびは全国平均を大きく下回る結果となりました。

《中学校2年生》



男子においては、反復横とび、20m シャトルラン、ハンドボール投げが全国平均を上回る結果であり、握力、長座体前屈、立ち幅とびは全国平均を大きく下回る結果となっています。また女子においては、上体起こし、反復横とび、持久走、20m シャトルラン、ハンドボール投げと多くの種目において全国平均を大きく上回り、体力合計得点においても全国平均を上回る結果となりました。

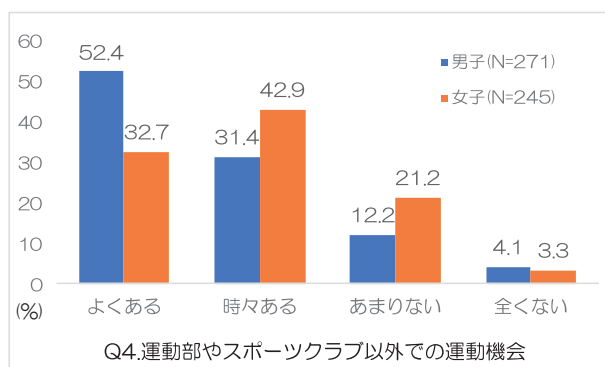
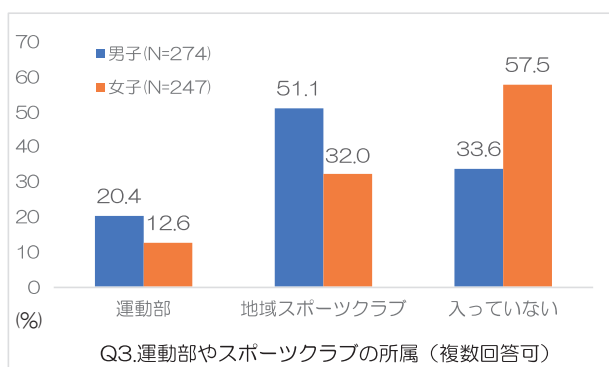
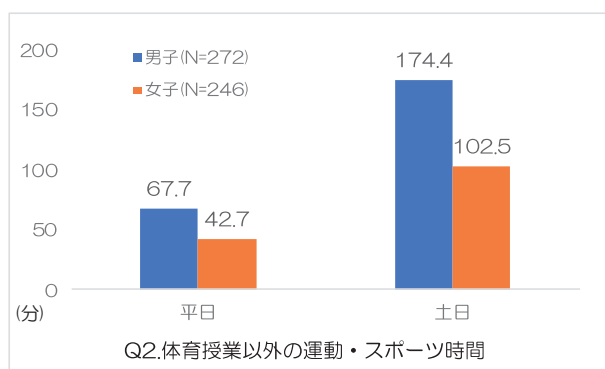
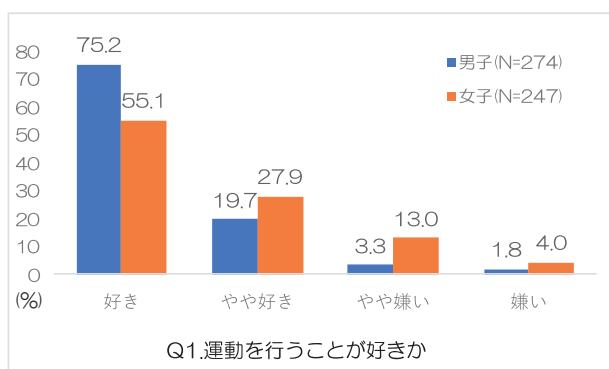
③ 児童・生徒の運動習慣等調査結果

平成 30 年度運動習慣等調査から一部抽出した結果となります。

《小学校 5 年生》

小学校 5 年生では、運動に対する嗜好性について、女子よりも男子の方が高い割合で運動を行うことを好んでいる傾向がみられ、運動部やスポーツクラブへの加入状況においても男子の方が多く加入していることがわかりました。体育授業以外での運動・スポーツ実施時間については、男女とも平日より土日の方が多く行なっている結果が出ており、こちらについても女子より男子の方が運動やスポーツに触れる機会が多いという結果となりました。運動部やスポーツクラブ以外での運動機会については、性別に関係なく運動機会を得ているという結果となりました。

—小学校 5 年生の運動習慣等について（男女比較）—

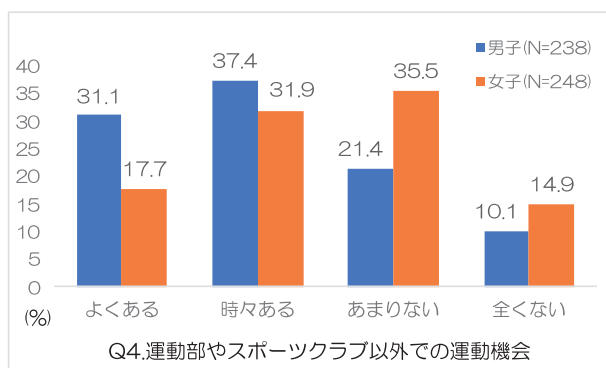
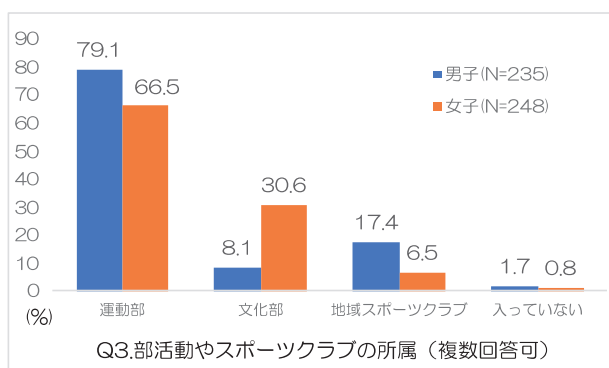
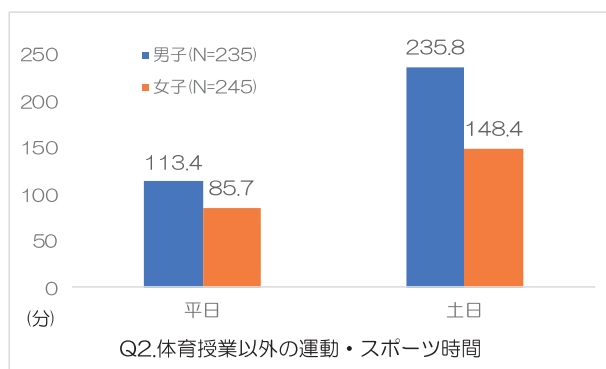
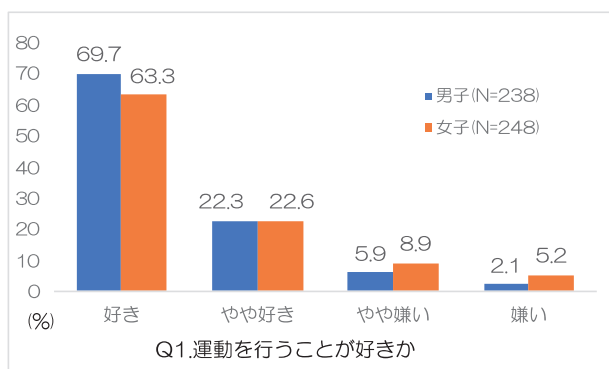


※平成 30 年度

《中学校 2 年生》

中学校 2 年生では、全体的に運動に対して好意的に感じている生徒が多く、性別による大きな差はみられませんでした。しかしながら、体育授業以外の運動・スポーツ時間については、特に土日において男子より女子の方が少ない傾向にあることがわかりました。運動部やスポーツクラブ以外での運動機会についても、これらの機会を得ていると回答した男子が約 7 割いるのに対し、女子は約半数にとどまっています。運動に対して好意的に感じている女子生徒が多いことから、受け皿となりうるスポーツ環境の整備が課題となります。

—中学校 2 年生の運動習慣等について（男女比較）—



※平成 30 年度

④ まとめ

下松市内各学校の取組から、児童・生徒の体力は平成 25 年度と比較し、多くの種目で向上がみられました。しかし全国平均と比較すると、長座体前屈や立ち幅跳びなどにおいて下回る結果が明らかとなりました。引き続き、体力の向上に向けた取組が必要と考えられます。

運動習慣等調査においては、児童・生徒ともに運動に対する好意的な感情は高いことが明らかになりました。しかしながら小学校 5 年生の女子においては、運動部やスポーツクラブに加入していないと回答した割合が高いこと、中学校 2 年生の女子では運動部やスポーツクラブ以外での運動機会が少ないと回答した割合が高いことを鑑み、児童・生徒のニーズに応えられるようなスポーツ環境の整備が急務であると考えられます。

第4章 施策の方向性

1 ライフステージごとの施策の方向性

幼 児 期（3歳～就学前）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
遊びを通じて体を動かす楽しみを覚える時期であり、様々な「する」「観る」の体験をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座 ・ 市民への啓発 ・ キッズ運動教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動講師を派遣し、教諭や保育士に幼児の運動を指導 ・ スポーツイベントで、親子で楽しむスポーツの紹介・啓発

学 童 期（小学生）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
運動を楽しむとともに、スポーツのフェアな精神、礼儀、マナーを学ぶ時期であり、基礎体力や運動能力をつけ、スポーツ体験の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の体力強化 ・ スポーツ活動の啓発 ・ 運動の安全対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもスポーツの提供充実 ・ 学校活動にて基礎体力の強化 ・ トップアスリート交流の推進 ・ 救急救命の指導（教師など）

思 春 期（中学生・高校生）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
スポーツを通じて、体力、精神力、運動能力が急激に高まる時期であり、生涯にわたってスポーツを行う習慣を身に付けるとともに、技術を磨き、競技などでの活躍を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動系部活動の強化推進 ・ 学校外スポーツ活動 ・ 大会参加などの推進 ・ 運動の安全対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ機会の提供 ・ 競技スポーツなどの推進 ・ 運動における安全対策 ・ トップアスリート交流の推進 ・ 基礎体力づくり支援 ・ 運動能力の向上 ・ 救急救命の指導

青年期（18～39歳）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
運動能力が高く、楽しむスポーツや競技スポーツを行う時期であり、子どもを持ち、スポーツを楽しむことを次世代に伝える時期でもある。これらの支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動教室 ・スポーツイベント ・スポーツ情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・下松市スポーツ情報の提供 ・運動施設利用促進 ・働く世代に対する支援 ・親子運動教室の開催 ・救急救命の指導

中年期（40～64歳）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
運動による生活習慣病の防止や、スポーツを通じて生活の質を高める時期であり、地域スポーツでの交流や支援をしやすい体制を構築していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動教室 ・スポーツイベント ・スポーツ情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・下松市スポーツ情報の提供 ・スポーツにおける相談体制整備 ・ボランティア情報の発信 ・働く世代に対する支援 ・特定保健指導などとの連携 ・救急救命の指導

高齢期（65歳～）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
生活習慣病の予防や介護予防においてスポーツが果たす役割が重要な時期であり、運動や支援活動ができる時間も増え、地域貢献の担い手となってもらうべく支援をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動教室 ・スポーツイベント ・ボランティア研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・下松市スポーツ情報の提供 ・スポーツにおける相談体制整備 ・ボランティア情報の発信 ・介護予防事業などとの連携 ・ニュースポーツの推進 ・救急救命の指導

2 下松らしさを活かした施策の方向性

(1) わがまちスポーツの発展

項 目	歴史背景	推進施策の方向性
ハンドボールの推進	昭和38年に国民体育大会のハンドボール競技を下松市で開催した。昭和54年には、下松中学校ハンドボール部が全国制覇、昭和56年、平成2年、4年に下松工業高校ハンドボール部が全国制覇、平成23年、24年に、華陵高校女子ハンドボール部が全国制覇するなど、大いに市民に誇りをもたらしている。	<ul style="list-style-type: none"> • わがまちスポーツであることの周知 • 競技力向上を目的としたトップアスリートとの交流会の開催 • 試合の案内や試合結果などの情報提供
バドミントンの推進	昭和44年に下松市スポーツデーを制定した際に、バドミントンを推奨し、市民親子バドミントン大会の開催や、全国トップレベルの選手を招いた大会や技術指導などを行い、競技人口の底辺を広げてきた。現在でも、毎年全国レベルの大会に選手が下松市から出場している。	<ul style="list-style-type: none"> • 東京2020オリンピックに係るベトナムのホストタウン • 東京2020オリンピック競技大会事前キャンプ地誘致(バドミントン) • 地域包括連携協定を活用したスポーツによるまちづくりの推進 • 施設整備

(2) 自ら手軽に行うスポーツの支援

項 目	現 状	推進施策の方向性
ウォーキングの推進	「下松スポーツ公園」のラバーコースで多くの市民がウォーキングを楽しんでいるほか、市内各所でウォーキングをしている人を多く見かける。ノルディックのストックを持つ人も見かける。市では、気軽にできるスポーツの啓発として、年1回ウォークラリー大会を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> • だれでも、どこでも、いつでもできる健康づくりのスポーツとしてのウォーキングを推奨 • 「下松スポーツ公園」のラバーコースの利用促進 • ひざへの負担も少なく、全身の運動となるノルディックウォーキングの普及
水泳（プール）の推進	温水プールにおいて、水泳教室が実施されている。市では、小学生を対象として、水泳の短期教室を毎年行っている。	<ul style="list-style-type: none"> • プール施設案内の充実 • プール利用体験の促進 • 水泳指導者の育成 • 施設整備

(3) 下松らしいイベント

項 目	現 状	推進施策の方向性
市民体育祭	昭和 25 年から開催し、現在はソフトボール・ラージボール卓球・ソフトバレーボール・グラウンドゴルフ・ゲートボールを開催しているが、参加者が高齢化・固定化し、チームが編成が困難な地域もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館区要件、参加要件の緩和の検討 ・競技種目の見直し ・レクリエーションスポーツの周知・活用 ・ボランティア制度の導入
下松駅伝競走大会	昭和 21 年から開催し、現在、久保・花岡地区周辺をコースとして行っている。中学、高校、女子、一般の 4 部門に分け、7 区間 20km 程度を競走している。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数、交通事情を考慮したコースの設定 ・ボランティアの活用促進 ・市内企業への積極的参加の呼びかけ
レクフェスタ	下松スポーツ公園体育館完成の記念行事として平成 20 年から始まった。レクリエーションスポーツの目玉としてのアジャタ（競技玉入れ）を中心に長なわとびなどの大会を行っているが、近年参加者が減少傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> ・競技種目の見直し ・公民館における短期スポーツ教室でのレクリエーションスポーツの普及強化 ・レクリエーションスポーツ器具の貸出促進

(4) 下松らしいしくみづくり

項 目	現 状	推進施策の方向性
スポーツボランティアバンクへの登録推進	スポーツイベントによっては、市民に直接協力を要請して、個別にボランティアを募っており、スポーツボランティアバンク登録者だけでは対応できないものもある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録制度の周知の強化 ・ボランティア活動内容の明確化、多様化
企業との協働によるスポーツ推進	市内の企業との連携により、トップアスリートの招へいなどのスポーツイベントが開催されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携によるスポーツイベントの継続 ・市のイベントへの参加促進 ・レクリエーションスポーツ器具の貸出促進

第5章 施策の展開

1 「する」スポーツの推進

(1) スポーツイベントの充実

スポーツには様々な種目があり、競技スポーツ以外にも、レクリエーションスポーツや、健康体操などがあります。一人でも多くの市民が、そのニーズにあったスポーツに出会い、スポーツを続けることができるよう、初心者への支援や、レクリエーションスポーツの普及を図るとともに、スポーツイベント、運動教室、出前教室などを多く開催します。

① 初心者への支援

主な取組	概要	運営主体	連携
下松レクフェスタ 短期スポーツ教室	スポーツイベントなどでニュースポーツの紹介などを行っているほか、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団などでは、初心者への対応をしている。	市生涯学習振興課 総合型地域スポーツクラブ	スポーツ少年団
達成状況			
あらゆる世代から参加者を募り、内容が分かりやすい種目を取り上げ、参加者の増加に努めた。また、市民体育祭の中にレクリエーションスポーツコーナーを設け、体験できる機会とした。スポーツ推進委員やスポーツボランティアと連携してゲームの進行や指導を行い、楽しみやすい雰囲気作りに配慮した。			

今後の展開	ライフステージ
活動を通じて、参加しやすい環境づくりや仲間づくりを図る。 <ul style="list-style-type: none"> 市が主催するイベントにおいて、初心者を迎え入れ仲間づくりを推進 初心者が参加できる教室の案内や教室内容の情報の提供を充実 指導者の研修を通じて、初心者への対応力を向上 障がいのある方や運動が苦手な人も気軽にできる軽スポーツの充実 スポーツイベント参加によるポイント制導入の検討 	幼児期 学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期

② レクリエーションスポーツの普及

主な取組	概要	運営主体	連携
短期スポーツ教室 レクリエーションスポーツ器具整備 ノルディックウォーキング	市広報及び市ホームページ、情報紙「スポーツネットきらら」などを通じて情報提供し、スポーツ教室の拡充、指導体制の充実などを進めている。	市生涯学習振興課	スポーツ推進委員
達成状況			
短期スポーツ教室やスポーツ少年団の交歓会において、レクリエーションスポーツの新種目としてワンバウンドふらばーボールバレーを紹介した。レクリエーションスポーツ器具の劣化状況、貸出頻度を調査し、安全に楽しく利用できるよう器具の点検、整理を行った。			

今後の展開	ライフステージ
<p>みんなが楽しみ、スポーツの継続ができるしくみづくりを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信を工夫し、より多くの人にレクリエーションスポーツを普及 ・新たに実施するニュースポーツの選択や講習会の実施 ・ノルディックウォーキングの推進を強化 ・障害の有無に関わらず、みんなが一緒に行えるスポーツの普及 	幼児期 学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期

③ スポーツ大会

主な取組	概要	運営主体	連携
ゲートボール大会 市民体育祭 下松駅伝競走大会 ウォークラリー大会 下松レクフェスタ	各種大会を開催しているほか、学校体育館なども社会体育の視点から市民開放を実施している。スポーツイベントを支える体制づくりとして、スポーツ関係団体と連携し、参加しやすい工夫を検討しながら進めている。	市生涯学習振興課	スポーツ関連団体 スポーツ推進員 学校
達成状況			
市民と行政との協働を推進するため、駅伝競走大会について平成28年度に実行委員会を立ち上げ、交通安全や自治会関係などさまざまな専門分野の方に委員になっていただき、大会の運営に生かした。また、イベントにはあらゆる世代に参加していただけるよう、適宜、スポーツイベントの企画や運営方法の見直しを行っている。			

今後の展開	ライフステージ
<p>スポーツイベントへの参加者の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクフェスタで、成年を含む幅広い年齢層など、より多くの市民の参加促進 ・初心者の参加を目的としたイベントを開催し、参加者の増加促進 ・老若男女幅広い年齢層の人たちが集い、実施できるスポーツイベントの増加 	幼児期 学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期

④ 運動教室

主な取組	概要	運営主体	連携
水泳教室 短期スポーツ教室	<p>水泳に関心がある児童を対象に3～5日間の教室を開き、水泳のスキルと意欲の向上を図るとともに、水泳指導者の資質向上の機会にもなっている。</p> <p>軽スポーツを紹介することで、スポーツ活動への積極的参加と地域コミュニティの活性化を図っており、各公民館の状況に合わせて取り上げる種目を選んでいる。</p>	市生涯学習振興課	学校 公民館 スポーツ関連団体
達成状況			
<p>水泳教室は、受講希望者数が毎年定員を超え、保護者からの関心が高い教室となっている。児童の泳力別に少人数体制でクラスを分け、指導を行っている。</p> <p>短期スポーツ教室では、公民館において、地域の特性を考慮した種目を選択し、地域住民との交流も含めたスポーツ体験の場としている。</p>			

今後の展開	ライフステージ
運動を長く楽しむことを普及し、運動する人の増加を図る。 ・児童に向けた水泳教室の継続実施 ・水泳教室の開催において、下松市水泳連盟と連携した指導者の確保 ・短期スポーツ教室の全公民館の実施及び継続と参加者の増加促進 ・ノルディックウォーキング教室の開催 ・運動教室の開催状況や募集について、様々なツールを用いた情報提供 ・質の高い指導者の育成ならびに確保	学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期

⑤ 出前教室

主な取組	概要	運営主体	連携
各団体への訪問による運動啓発	学校、公民館、いきいきサロンなどさまざまなところへ講師を派遣し、軽運動や、運動の実施に関する啓発・教育を行っている。	市生涯学習振興課	学校 公民館 社会福祉協議会
達成状況			
公民館や保健センターにおける高齢者の健康教室、学校において親子で取り組むレクリエーションスポーツ体験教室等へ講師を派遣し、気軽にできる運動の紹介を行っている。特に、健康教室は年間を通して定期的に行われ、受講生には、健康づくりのための継続的な運動習慣が身についている。			

今後の展開	ライフステージ
出前教室の周知及び指導者の増加を図る。 ・より多くの団体に活用してもらえるよう広報や声掛けなどの推進 ・講師やインストラクターとなる人の発掘により、出前教室の量や質、種類の充実	幼児期 学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期

(2) 学校スポーツの推進

青少年期は幼児期とともに、生涯にわたる心身の礎を築く大切な時期です。この時期に、学校体育を充実させ、体力向上の取組みを行うことによって、高い体力水準を得ることができます。学校と連携を図りながら、体育学習の充実、運動系部活動の充実、家庭との連携を図りながら運動する楽しさの啓発をします。

① 体育の充実

主な取組	概要	運営主体	連携
体育授業 1校1取組み スポーツ活動調査 柔軟性の向上	各学校における新体力テストの分析及び子どもの体力向上に向けた取組み計画を作成し、体育の授業改善と充実、1校1取組みの実施、家庭・地域との連携、運動系部活動やスポーツ活動割合の増加などを行っている。	学校	県教育庁学校安全体育課
達成状況			
全国調査によると、子どもの1週間の運動時間は全国平均を上回っており、取組の成果と考えられる。一方、県も同様に課題としている柔軟性や投力については、県平均を下回っており、バランスのとれた体力向上が今後とも課題である。			

今後の展開	ライフステージ
運動を楽しむことや基礎体力の向上をめざす。 ・ 体育授業を通じて、運動の楽しさを体感できる指導を実施 ・ 1校1取組みにおいて、バランスのとれた基礎運動能力の向上 ・ スポーツ活動調査の継続実施 ・ 運動の重要性を授業の中で啓発	学童期 思春期

② 運動系部活動の充実

主な取組	概要	運営主体	連携
運動系部活動の推進	中学校では多くの生徒が運動系部活動に所属している。高等学校に進学すると運動系部活動に所属している生徒は減少している。	学校	外部指導者
達成状況			
県の部活動指導の手引等を踏まえ、生徒のバランスのとれた生活や成長の確保につながる活動が推進されている。教員の業務改善や部活動中における安全管理と事故防止がクローズアップされる中、教員の人材育成や地域スポーツ団体との連携が重要である。			

今後の展開	ライフステージ
運動系部活動の活性化を図る。 ・ 運動系部活動の内容充実 ・ 運動系部活動指導者の育成・研修の実施 ・ 運動の楽しさの啓発	思春期

③ PTA・地域などの運動の充実

主な取組	概要	運営主体	連携
PTA保健活動	学年PTAで親子運動の実施、学校保健委員会でのコーディネーショントレーニングについての啓発・実施、並びに長期休みを使った親子トレーニングの紹介、実施をしている。	PTA	学校
達成状況			
各学校の実態に応じた取組が進められており、運動習慣の確立や意識の向上につながっている。			

今後の展開	ライフステージ
親がスポーツを楽しむことで子どもも運動の楽しさを知る。 ・ 参加促進の広報を充実 ・ 親子の参加により、親同士、親子同士の交流促進	学童期 思春期 青年期 中年期



下松駅伝競走大会



下松レクフェスタ

(3) 競技スポーツの振興

競技スポーツ振興のため、体育協会との連携を深め、地域のスポーツ活動や体育協会主体の活動を支援します。

① 体育協会

主な取組	概要	運営主体	連携
全国大会出場激励金交付	25団体の登録があり、各種スポーツ活動を行っている。全国大会出場激励金交付、会長賞などの授与や体育功労賞の県への推薦などで、競技力向上を図っている。また、下松駅伝競走大会や国体下松市代表選手団壮行会を市と共同で開催している。	体育協会	市生涯学習振興課
達成状況			
市では、全国大会等へ出場する選手の増加に対応するため、平成28年度に、スポーツに関する包括的な賞を創設した。体育協会では、優秀選手やスポーツの発展に貢献した功労賞等の推薦を行っている。また、トップアスリートとの交流事業を展開するとともに、保護者や指導者を対象とした栄養、メンタルに関するスポーツ講習会を開催し、スポーツを支える視点での活動も積極的に行っている。			

今後の展開	ライフステージ
体育協会の組織強化を図る。 ・体育協会加盟団体の協調性を強化 ・行政との関わり方に関し自主運営の強化 ・指導者育成事業等の実施	学童期 思春期 青年期 中年期

(4) 生涯スポーツの推進

年齢や性別を問わず、だれもが生涯にわたって日常的にスポーツを楽しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などの活動を支援したり、健康体操教室を開催したりします。

① 総合型地域スポーツクラブ

主な取組	概要	運営主体	連携
・スポーツ教室 ・交流大会の開催 ・トップアスリートによる種目別教室の開催	「くだまつ絆星スポーツクラブ」が総合型地域スポーツクラブとして活動を行っている 〔活動内容〕 ラージ硬球卓球 パドルテニス ジュニアハンドボール ノルディックウォーキングほか	くだまつ絆星スポーツクラブ	市生涯学習振興課 スポーツ施設
達成状況			
平成30年度に、クラブ運営の資質向上と会員数の増加を目的に、ノルディックウォーキング教室を、くだまつ絆星スポーツクラブと協働して市が開催した。クラブ会員との交流を図りながら、一般参加者は、会員による歩き方の講習を通じて、スポーツの楽しさを体感した。			

今後の展開	ライフステージ
総合型地域スポーツクラブの内容充実の推進を図る。 ・サークル数や会員数の増加、クラブ運営の資質向上、指導者の育成を図る。 ・活動場所の確保	学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期

② スポーツ少年団

主な取組	概要	運営主体	連携
全国大会出場激励金交付 各種表彰 デイキャンプ	21団体5百余名の子どもの登録があり、各種スポーツ活動を通じて、健全な心身の育成を行っている。全国大会出場激励金交付、優秀指導者表彰などで、競技力向上を図っている。また、夏休みには、団体、学年をこえた交流行事を行っている。	スポーツ少年団	市生涯学習振興課
達成状況			
保護者を対象に普通救命講習会を開催し、子どもたちを支える環境づくりの一環として、参加を促している。夏休みには、競技種目や学校に関係なく、団を超えた交流行事としてデイキャンプを行い、子どもたちの幅広い人間形成に役立っている。			

今後の展開	ライフステージ
加入率の向上を図る。 ・各学校でスポーツ少年団の紹介やホームページなどで活動紹介など広報活動の推進 ・各団体間の交流の促進 ・指導者育成講習会の開催	学童期

③ クラブチーム

主な取組	概要	運営主体	連携
キッズスポーツスクールの開催 ジュニアサッカースクールの開催	NPO 法人下松スポーツクラブ・グランザ下松フットボールクラブ（FC）として、スポーツを通じて青少年の健全育成を目指し活動している。	NPO 法人 下松スポーツクラブ	市生涯学習振興課
達成状況			
グランザ下松 FC は、中国大会に3年連続5回目の出場を果たし、サッカー競技における地域の中核クラブとして活動している。ジュニアサッカースクールでは、各サッカークラブをこえた仲間づくりがなされ、競技力向上を目指して活動している。キッズスポーツスクールでは、対象を年中・年長から小学校1・2年生まで広げ、運動好きの子どもの育成に努めている。このスクールでは、ボランティアスタッフとして中学生が参加しており、異年齢交流の場としての役割も果たしている。			

今後の展開	ライフステージ
加入数の向上を図る。 ・次の世代を考慮した指導、選手の育成 ・未来ある子どもたちの夢への挑戦へのサポート ・フェアプレー精神の啓発、遵守 ・規律、挨拶、協調性、向上心を持てる選手の育成（豊かな人間形成）	学童期 思春期

④ 健康教室・健康体操の普及

主な取組	概要	運営主体	連携
健康体操教室 歩こう会事務局	健康増進部門と連携し、健康体操、歩こう運動など身近な運動への参加を促進するほか、指導者育成と合わせ健康・体力づくり運動を推進している。	各公民館 保健センター 歩こう会	市生涯学習振興課 市健康増進課
達成状況			
<p>公民館や保健センターにおいて体操教室を行い、高齢者を中心に気軽にできる運動の普及を行った。また、平成28年度には、下松市民憲章協議会による「市民憲章」オリジナル体操創作・普及事業において、スポーツ推進委員の協力により「くだまつコミスポ体操」を制作した。市内のイベントにおいて、この体操を紹介することで、市民への周知が広がり、気軽にできる体操として認知されつつある。</p>			

今後の展開	ライフステージ
<p>スポーツを通じた健康づくりの推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防の推進、講座の開講 各公民館単位で様々なスポーツ・健康教室を開催することができるように指導者を発掘、育成 参加者の多様なニーズに対応できるような企画立案 歩こう会メンバーの活性化対策として、中年期への参加働きかけ 	<p>中年期 高齢期</p>

(5) 障害者スポーツの推進

障害者が自身の興味や関心に合わせてスポーツを楽しみ、交流ができるよう、スポーツイベントについて情報提供するほか、障害者関係団体やボランティアと連携を図りながら、障害者スポーツの推進に努めます。

① 障害者スポーツの普及

主な取組	概要	運営主体	連携
周南3市ふれあいフェスタ 山口県障害者スポーツ大会 (キラリンピック)	スポーツやレクリエーションへの参加を促進するほか、障害者関係団体及びボランティアと連携し、スポーツやレクリエーションを推進している。	市福祉支援課	市生涯学習振興課 光市、周南市、 県障害者支援課
達成状況			
<p>平成28年度に下松市で開催された周南3市ふれあいフェスタに、運営スタッフとしてスポーツ推進委員が参加した。参加者にとってスポーツに親しみやすい環境をつくる大切さ、ルールをアレンジすることにより、スポーツへの親近感が一層増すこと等を学んだ。</p>			

今後の展開	ライフステージ
<p>ニーズに対応した障害者スポーツの多様な支援を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> だれもが参加できるスポーツやレクリエーション活動の充実 スポーツイベントなどの情報提供やボランティア参加の促進、並びに理解と関心の高揚 スポーツの多様性に応じたスポーツ指導者の育成 	<p>幼児期 学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期</p>

2 「観る」スポーツの推進

(1) 観るから学ぶ

多くの人にとって、スポーツを観ることはもっとも手軽なスポーツとの関わり方です。身近な大会の情報提供をしたり、総合型地域スポーツクラブ、地域の企業との連携を図り、トップアスリートの講演会や交流会を開催したりします。

① スポーツ見学

主な取組	概要	運営主体	連携
地元大会の応援促進	下松市はソフトボールの中国大会の会場となっており、観戦できるほか、下松駅伝では、沿道に多くの市民が応援・見学を楽しみ、その数も増加している。また、スポーツ少年団などの試合には家族をはじめ多くの市民が応援している。	市生涯学習振興課	体育協会
達成状況			
<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度に周南市、下松市、光市を会場に開催された全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技では、生徒や保護者、卒業生など多くのファンが競技を観戦した。 平成 29 年度に、ACT SAIKYO チャレンジ 2017 日本ユニシス親善マッチを開催、平成 30 年度には、全日本実業団バドミントン選手権大会が下松市等を会場に開催され、バドミントンS/Jリーグ等で活躍するトップクラスの選手の試合に、多くの観戦者が魅了された。 平成 29 年度、平成 30 年度には、日本ハンドボールリーグ下松大会を開催し、トップチームの迫力ある試合を間近で体感し、会場は大いに沸いた。 			

今後の展開	ライフステージ
スポーツによる感動を数多く体験する。 <ul style="list-style-type: none"> 地域で行われる各大会に関する情報をホームページや SNS など案内 ケーブルテレビなどを使った、市主催スポーツイベントの紹介 トップアスリート・オリンピックを招へいしたスポーツイベントの開催 	学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期



全日本実業団バドミントン選手権大会



日本ハンドボールリーグ下松大会

② 講演会・交流会

主な取組	概要	運営主体	連携
トップアスリート・オリンピック等派遣指導	プロスポーツ選手、アマチュアトップ選手、オリンピック等による講演会や交流会を、総合型地域スポーツクラブや地元の企業、社会活動団体の支援で行い、スポーツに感動する心を育てている。	総合型地域スポーツクラブ 市内企業 社会活動団体	市生涯学習振興課
達成状況			
競技力向上を目的としたトップアスリート・オリンピック等による指導と並行し、実際の指導者がアスリートの指導のしかたを見て、自身の資質向上を図る機会となっている。			

今後の展開	ライフステージ
<p>トップアスリート・オリンピック等との交流により、スポーツに対する関心をさらに高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを生観戦することやアスリートと直にふれる機会の増加 ・講演会、交流会（選手と小中学生とのスポーツ交流等）の継続や市内企業、社会活動団体との連携強化 ・スポーツ講演会、交流会の広報を強化 	<p>学童期 思春期 青年期 中年期 高齢期</p>

3 「支える」スポーツの推進

(1) 人材で支える

スポーツの楽しさに気づかせ、積極的にスポーツを行う思いを育てたり、地域でスポーツ活動を活性化させたりしていくためには、その活動を支える指導者やボランティアが必要です。市民が幅広くスポーツに親しむ機会を提供するため、指導者の育成や資質向上に努めるとともに、活動の運営を支えるスタッフやボランティアの育成を図ります。

① ボランティア育成

主な取組	概要	運営主体	連携
ボランティア育成	スポーツイベントがあるごとに、スポーツ推進委員などを通じてイベントを支えるボランティアを要請している。	市生涯学習振興課	スポーツ推進委員 ほか
達成状況			
平成 27 年度に下松市スポーツボランティアバンクを設置したが、登録者数が伸び悩んでおり、登録者に対する育成研修を開催するまでには至っていない。			

今後の展開	ライフステージ
スポーツボランティア登録制度の周知を図る。 ・ボランティア研修、救急救命講習などを通じたボランティアの資質向上 ・ボランティア活動に参加できる情報提供体制の整備（受入団体との連携強化） ・ボランティアの専門性を活かした役割分担 ・ボランティア活動可能なイベントの拡充、受入団体の拡大	青年期 中年期 高齢期

② 指導者育成支援

主な取組	概要	運営主体	連携
指導者育成支援	指導者を育成するため、指導者研修や実技講習会などの充実を通じ、スポーツ推進委員などの資質向上などを促進している。	市生涯学習振興課	スポーツ推進委員
達成状況			
スポーツ推進委員については、全国、中国地区、周南地域の研修に積極的に参加し、他市の委員との交流を通じて、スポーツイベントの企画、運営等について学び、下松市での取組に生かした。スポーツ少年団については、認定員指導者講習会を開催するとともに、指導者研修に関する情報を随時各団へ提供し、少年団活動の支援を行った。			

今後の展開	ライフステージ
指導者を発掘・育成する体制の構築を図る。 ・生涯学習活動の一環として、地域コミュニティの視点からスポーツ推進委員の選出方法の見直し及び後継者の発掘 ・スポーツ推進委員の専門性の強化 ・出前教室で運動の指導インストラクターとなる人材の発掘や育成の実施 ・次期指導者の育成（若年層の指導者育成、スポーツの好循環を図る）	青年期 中年期 高齢期

③ キッズ運動教室支援

主な取組	概 要	運営主体	連携
キッズ運動教室	幼児期の運動神経の発達、成長後の運動能力に大きくかかわることが近年指摘されており、幼児に対する運動の重要性の啓発と指導が望まれている。	市生涯学習振興課	保育園 幼稚園
達成状況			
<p>幼児を対象とした子どもと親のミニトランポリンエクササイズ、トランポリンを使ったリズム遊びを行った。基礎体力や免疫力の向上を助けるとともに、バランス感覚や柔軟性を身に付ける方法として効果的であった。</p>			
今後の展開			ライフステージ
<p>幼児期の運動の大切さを広め実践していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種運動教室の開催を幼稚園や保育所に促進 ・ 出前講座等で教諭や保育士に幼児の運動に関する情報提供や実技指導 			幼児期

(2) 情報で支える

市民が知りたいときに、いつでもスポーツの情報が得られるよう、スポーツに関する情報提供を図ります。

① ICTの活用

主な取組	概要	運営主体	連携
ホームページ整備	スポーツイベント、スポーツ施設利用状況、スポーツ教室の案内などを、ホームページを利用して調べることができる。	市生涯学習振興課	スポーツ施設 学校 体育協会
達成状況			
市のホームページを通じて、主催事業の紹介、参加者募集に努めた。スポーツ関係団体との連絡調整においてメールを積極的に活用することで、速やかな情報提供を行い、事務の効率性を高めた。			

今後の展開	ライフステージ
<p>ホームページなどを活用した情報提供力の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> より多くの伝達手段によるイベント、教室などの情報発信（市ホームページ、SNSなど） メールなどによるスポーツ関連情報の問合せができる体制の構築 県ホームページを通じて、他市町のスポーツ大会やスポーツ活動の補助金などの情報を入手しやすい体制の構築 	青年期 中年期 高齢期

② 周知・広報の推進

主な取組	概要	運営主体	連携
スポーツネットきらら発行	市の広報やスポーツネットきらら発行により、スポーツイベントや教室の情報を周知している。	市生涯学習振興課	スポーツ推進委員
達成状況			
スポーツネットきららでは、行事開催案内だけではなく、開催後の参加者の感想、行事運営に当たり考慮した点などを紹介することで、多くの市民からの関心が高まるよう、紙面づくりを工夫した。			

今後の展開	ライフステージ
<p>スポーツに関する情報の一元化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下松市のスポーツイベント、教室などの情報の幅広い収集、包括的な情報提供 ホームページ、紙媒体、掲示板を活用した、より効果的な周知、広報の実施 スポーツネットきららの継続発行（年3回）及び周知の強化 	青年期 中年期 高齢期

(3) 連携で支える

各分野でスポーツを実施する団体や企業との連携を深め、市のイベントへの参加を促進しながら、生涯スポーツや競技スポーツの活動を支援します。

① スポーツ組織の育成

主な取組	概要	運営主体	連携
事務局の運営 市体育協会、スポーツ少年団への補助金 総合型地域スポーツクラブ支援	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団、下松市体育協会、下松市歩こう会の事務局運営を行い、組織の育成を行っている。 ・総合型地域スポーツクラブの運営支援やアドバイスなどを行っている。 	市生涯学習振興課	各団体
達成状況			
補助金の交付、各組織に関する情報提供等により、資質向上、運営力の強化を目指し、組織の育成支援を継続した。			

今後の展開	ライフステージ
組織及び組織を支える人材の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの団体が自主運営できるよう、組織運営支援や補助金の交付 ・スポーツ組織のリーダーとなる人材の発掘と育成 ・他団体、組織との連携を強化 	青年期 中年期 高齢期

② 企業などとの連携

主な取組	概要	運営主体	連携
スポーツ交流・元気県づくり県民運動 企業などの社会貢献	市内の企業の支援により、スポーツ講座などが開催されている。	市生涯学習振興課	市内企業
達成状況			
企業等と連携し、トップアスリートを招へいしたスポーツ教室への後援、わがまちスポーツの推進のための大規模大会の開催等、スポーツによる地域振興に努めた。			

今後の展開	ライフステージ
市内企業との連携強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・市のイベントへの参加促進（企業を巻き込んだスポーツイベント企画） ・スポーツを推進している企業の県への推薦（スポーツ交流・元気県づくり県民運動） ・企業や社会奉仕団体との連携で、継続的で一貫性のあるスポーツ支援の企画 ・各企業で、ラジオ体操やスポーツクラブ活動実施の推奨及び市のスポーツイベントとの連携強化 	青年期 中年期 高齢期

(4) スポーツ施設の充実

各施設の機能や利用形態の状況把握をし、施設の小規模改修による耐震強化を図り、各スポーツ施設の特性に応じた効率的、効果的な施設運営と利活用を進めます。

① 施設利用の推進

主な取組	概要	運営主体	連携
体育施設管理	市民のスポーツニーズの把握に努めつつ、スポーツ施設の充実や駐車場などの附属施設の効率的運用を図っている。平成20年4月から指定管理者制度を導入し、管理、運営を行っている。	指定管理事業者	市生涯学習振興課
達成状況			
定期的に施設調整会議を開催し、施設に関する課題、利用者の要望等について指定管理者と協議し、施設運営の改善、解決につなげた。			

今後の展開	ライフステージ
施設利用効率化を図り、より多くの市民の利用を促進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用を促進し、利用状況の公開を推進 ・ 学校の運動系部活動の利用に対して利用料金の軽減化 ・ 利用料金減免対象団体に対する減免の継続実施 	思春期 青年期 中年期 高齢期

② 小中学校運動施設利用促進

主な取組	概要	運営主体	連携
学校体育施設利用推進	各小・中学校の体育館や校庭の利用の管理を各地域の公民館が実施することで、地域のより多くの住民が有効に利用できる体制を構築する。(平成26年4月から)	公民館	市教育総務課
達成状況			
公民館開館中に学校施設の借用手続きが可能となり、施設の利用の利便性が高まった。引き続き、生涯スポーツの場として、学校体育施設が活用されている。			

今後の展開	ライフステージ
地域への広報や利用申し込みに対する速やかな対応を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用状況、予約状況の明示を行い効率的な利用を促進 ・ 利用のしかたやマナーなどの指導の強化 	児童期 思春期 青年期 中年期 高齢期

③ 施設整備

主な取組	概要	運営主体	連携
施設整備	体育施設などの老朽化に伴う補修・修繕及び、器具・備品の購入を随時行っている。	市生涯学習振興課	市住宅建築課 指定管理事業者
達成状況			
平成 28 年度は市民体育館について、耐震改修工事を行った。安全で快適なスポーツ環境の提供のため、利用者の要望を取り入れながら、施設、設備の改修、修繕、更新を行った。			
今後の展開			
施設や備品の整備により、利用の安全確保と効率化を継続する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 下松スポーツ公園体育館施設改修事業による、空調設備の設置等 ・ 市民体育館などの施設改修工事等の実施による、施設の安全確保 ・ 器具・備品の整備により、安全確保や利用の促進 			



下松スポーツ公園体育館

第6章 計画の推進

本計画に掲げた各施策の推進は、行政だけではなく、市民、スポーツ団体、民間企業などとの協働があってはじめて実現できるものです。今後は、これらの関係団体との役割分担のもと、共同・連携を進めていくとともに、ネットワークの形成に努め、本市のスポーツ推進を行っていきます。

1 市民・スポーツ各関係団体・行政との協働のしくみの構築

計画を着実に推進していくためには、関係する団体・機関、市民、行政が協働して取り組んでいくことが必要です。

計画の基本理念「生涯スポーツ活動による心豊かな生活の実現をめざして」を具現化するため、限られた地域の施設を有効活用するとともに、生涯学習振興課を中心に、市民、スポーツ各関係団体及び庁内関係部局と連絡を密にし、協働体制による施策を展開します。

2 課内での進捗状況の把握

計画の改善をしていくためには、年度ごとの進捗状況を確実に把握していくことが重要です。

計画推進のため諸事業が円滑に実施され目標が達成されるよう、毎年、生涯学習振興課で進捗状況について話し合い、重点施策の達成状況や、次年度の重点施策の確認を行い、PDCAによる適正な進行管理を行います。

※PDCAとは、Plan（計画）-Do（実行）-Check（評価）-Action（処置）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に検証・改善する手法

3 計画の達成状況の検証

5年ごとに計画を見直していくため、達成状況を把握することが重要です。

計画の達成状況については、3年を目処に設定指標の適否を含め、その原因を検証するとともに、計画の見直しにあたっては、スポーツを取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、着実かつ効果的な改善方策を検討することとします。

4 市民への周知

計画の策定に当たっては、学識経験者、学校体育関係者、スポーツ団体関係者、各種団体関係者からなる下松市スポーツ推進計画策定検討委員会において、検討するとともに、市民ワークショップを開催して、そこで出された意見を推進計画に反映させています。

市民と協働で作り上げた推進計画の状況を広く市民の皆様にご覧いただくため、市のホームページや広報紙などを使って周知を図っていきます。

資料

- 1 下松市体育施設・健康増進施設等**
- 2 下松市スポーツ推進計画策定過程**
- 3 下松市スポーツ推進計画策定検討委員会設置要綱**
- 4 下松市スポーツ推進計画策定検討委員会委員名簿**

1 下松市体育施設・健康増進施設等

施設名	所在地	利用時間	H24年度 利用人数 (人)	H29年度 利用人数 (人)
	電話 0833			
市民体育館	西柳1丁目1番1号	平日 9:00-22:00 日曜祝日 9:00-17:00	43,053	45,356
	41-2832			
市民武道館	西柳1丁目1番1号	平日 9:00-22:00 日曜祝日 9:00-17:00	16,684	18,606
	41-2832			
公園プール	西柳1丁目1番1号	10:00-16:00 (7月21日~8月31日 火曜除く)	7,769	6,720
	41-2832			
下松スポーツ 公園体育館	大字河内10140番地	平日 9:00-22:00 日曜祝日 9:00-17:00	43,600	46,246
	45-3700			
下松スポーツ 公園総合グラ ウンド	大字河内10140番地	6:00-日没	33,822	33,817
	45-3700			
下松スポーツ 公園球技場	大字河内10140番地	6:00-日没	5,005	4,304
	45-3700			
温水プール (プール、浴室、 トレーニング)	大字河内10140番地	平日 11:00-20:00 (月曜除く) 土日祝日 10:00-18:00	103,762	143,845
	41-6200			
市民運動場	大字末武下620番地1	6:00-22:00 (夜間照明有り)	29,511	23,653
	41-2832			
葉山グラウンド	葉山1丁目819番地34	6:00-日没	10,534	8,463
	45-3700			
恋ヶ浜緑地庭 球場	大字東豊井551番地1	9:00-日没	11,280	8,794
	41-2832			
下松公園庭球 場	大字西豊井460番地	9:00-日没	3,481	3,500
	41-2832			
健康増進室	中央町21番1号	9:00-17:00 (日曜祝日除く)	29,896	20,042
	41-1234			

2 下松市スポーツ推進計画策定過程

項 目	日 程	場 所
事務局担当者会議 「計画策定工程打合せについて」	平成 30 年 10 月 30 日	下松市役所 5 階会議室
第 1 回下松市スポーツ推進計画策定検討委員会	平成 30 年 11 月 29 日	下松市役所 5 階会議室
第 2 回下松市スポーツ推進計画策定検討委員会	平成 31 年 1 月 24 日	下松市役所 5 階会議室
事務局担当者会議 「ワークショップの進行・運営について」	平成 31 年 1 月 30 日	下松市役所 5 階会議室
下松市スポーツ推進計画の策定に向けた 「市民ワークショップ」	平成 31 年 2 月 3 日	ほしらんど くだまつ サルビアホール
事務局担当者会議 「ワークショップまとめ及び計画骨子案の検討 について」	平成 31 年 2 月 26 日	下松市役所 5 階会議室
第 3 回下松市スポーツ推進計画策定検討委員会	平成 31 年 3 月 7 日	下松市役所 5 階会議室
事務局担当者会議 「計画最終案の検討」	平成 31 年 3 月 22 日	下松市役所 5 階会議室

3 下松市スポーツ推進計画策定検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第10条第1項の規定に基づくスポーツの推進に関する計画を策定するに当たり、幅広い意見を反映させるため、下松市スポーツ推進計画策定検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査及び検討を行う。

- (1) 下松市スポーツ推進計画(以下「計画」という。)の策定に関する事項
- (2) その他計画に必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員11人以内で組織し、次に掲げる者の中から市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) スポーツ団体関係者
- (3) 各種団体関係者
- (4) 学校教育関係者

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を各1名置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、計画の策定が終了した時までとする。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が必要に応じて招集し、会議の議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会生涯学習振興課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成25年7月26日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、第1条に掲げる目的が達成されたとき、その効力を失う。

(最初の会議の招集)

3 この要綱による最初の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

4 下松市スポーツ推進計画策定検討委員会委員名簿

番号	分野	所属団体及び役職など	氏名
1	学識経験者	徳山大学准教授	◎ 瀬尾 賢一郎
2	スポーツ団体関係者	下松市体育協会理事長	設楽 健治
3		下松市スポーツ推進委員協議会会長	○ 石津 孝弘
4		総合型地域スポーツクラブ NPO法人「くだまつ絆星スポーツクラブ」会長	小本 輝夫
5		下松市バトミントン協会副会長	大段 宏
6		下松市スポーツ少年団本部長	田村 育人
7		各種団体関係者	シニアクラブ下松副会長
8	山口県障がい者スポーツ指導者協議会理事 周南・光・下松地区世話人		尾畑 敏江
9	学校教育関係者	下松市小学校体育連盟理事長	伊藤 陽介
10		下松市中学校体育連盟理事長	内山 直樹
11		下松市高等学校体育連盟理事長	小林 勇児

※◎は委員長、○は副委員長